

来ぶらり ⑥

〈黄金の林檎^{りんご}〉と〈ひねこびた林檎〉 ——わが青春のテキスト——

どんな名作でも教科書になった途端に無味乾燥になると言うが、私には、学生時代教室で読んだ英文の2冊が強く印象に残っている。まずゴールズワージーの「林檎の樹」である。妻との銀婚式のドライブの帰路、弁護士^{アシヤースト}のAshurstは、とある村外れで自殺者の墓に出会わず。学生時、旅の行きずりに棄てた少女のそれと知った時、彼は青空を仰ぎ、手にしたギリシャ悲劇の合唱〈黄金なる林檎の樂園〉の一節を眩やがずにはいられない。シニツクな初老のF教授が朗読をふと止め、窓外の北国の濃い夏空にぼんやり眼をさ迷わせていたのがつい昨日のように思い出される。〈人間という代物は、この人生にふさわしく造られてはいない!〉という主人公の詠嘆がF先生の胸を疼かせたのだろうか。禁断の味の味が苦くしみるのは、青春が二度と帰らぬと確実に知った時なのである。

2冊目の「Winesburg, Ohio」は、大学院出たてのS講師で、度の強い眼鏡を光らせ、訳読中も興が乗ると吃り気味の早口で英語と日本語をちゃん

ぽんにまくし立てられるのには弱った。作中、教会の窓硝子を壊して隣家の女を覗く牧師が登場するが、その狂熱さのゆえに、私など失礼にも、それとS先生を心中ダブルせたりもした。作者のアンダスンはその「grotesque」な登場人物達を〈ひねこびた林檎〉にたとえ、その意外な味の良さに言及している。10年後、ある事情から上京してその日暮しをしていた私は、そんなグロテスクな人間が周囲に実際にいるのに驚いたが、よそ目には自分もそう見えたに違いない。俗物のAshurstなどの一刻の甘美な悔恨に比べ、時代や環境の歪みの中で自分なりに選び取った真理に従って生きる時、人は誰しも〈グロテスク〉になるものらしい。

S先生とは、去年、駅前で偶然すれ違ったことがある。銀髪を混えた先生は、人生の時間を飼い慣らしたとでもいうような髭^{かげ}を外套の背にまわり付かせたまま、30年前の教え子が見送るのに気付かず、雑踏の中へ静かに歩み去られた。

(整理課長 境 経夫)

互いにそつと寄りそつて

大学図書館入口の真正面に大木がある。見上げると大きくふたまたに分かれ、葉を繁らせている。姿のよい木だ。途中で幹が分かれている1本の木のようにみえるが、互いの木肌が微妙に違っている。むくの木と樺の違いだ。2本の木が、まるで人の目をごまかそうと意図しているようでもあり楽しい。何よりも、互いに抱き合っているようにみえてさらに良い。こんなふうになれないものだろうか、各研究室と図書館が、そして、学生と館員も。etc. 互いにそつと寄りそつて...

来ぶらりセミナー、来ぶらりビデオ、少しずつ枝を広げている。『来ぶらり』一周年を研究室の紹介とした。その時のアンケート調査の回答にあった、図書館のイメージ「案外本の少ない図書館」が、「案外役に立つ図書館」になるためにも。

(洋書係 甲斐静子)

来ぶらりセミナー

第5回

アメリカ法の調べ方

講師：樋口範雄
(法学部助教授)

7月7日(土) 1:30~3:30PM
大学図書館3階会議室

第6回

引用文献の原著を探す—欧文—
10月27日(土) 1:30~3:30PM

これで決まり！ 研究室情報 — 研究室のすべてを探る —

研究室といっても様々ではない。「図書の貸出しもします」といった所から、本格的に「図書室」と銘^かうっている所まである。それぞれに規則は異なるが、一定の手続きを済ませれば、他学部の人でもすべて利用できる。研究室の図書は専門書が多いから、大いに利用する価値がある。図書館はもちろん、研究室の資料もうまく活用してみよう。(まとめ：編集委員)

- | |
|--|
| ① 貸出冊数 ② 貸出期間 ③ 閲覧冊数
④ 他学部学生の利用 ⑤ ④が可の場合必要な手続き ⑥ 開室時間 ⑦ その他 |
|--|

- ① 2冊 ② 2週間 ③ 3冊 ④可 ⑤紹介者印が必要 登録の上、帯出カードを発行(年度ごとに更新) ⑥ 9:00~17:00(土 13:00)

理学部物理・化学科図書室

- ① 2冊 ② 8日間 ③ 制限なし ④可 ⑤学生証を提示 ⑥ 9:00~17:30(土 13:00)

理学部数学科図書室

- ① 5冊(他学部・他学科は3冊) 院生 7冊 ② 1か月(他学部・他学科は8日) 院生 2か月 ③ 制限なし ④可 ⑤学生証・身分証明書・紹介状のいずれかを提示 ⑥ 9:00~17:30(土 13:00)

教職課程

- ① 3冊 ② 2週間 ③ 制限なし ④教職課程を履修している学生(院生・聴講生を含む)すべてが対象 ⑤不要 ⑥ 9:00~17:00(土 12:00)

言語共同(中国語)研究室

- ① 3冊 ② 2週間 ③ 制限なし ④全学部学生・院生が対象 ⑤不要 ⑥ 8:40~16:40(土 12:40)

史料館

- ①貸出し不可 ③10冊 ④全学部学生・院生が対象 ⑤学生証を提示 ⑥ 9:00~17:00 ⑦閲覧日は火・金(9:30~11:30 13:00~16:30)のみ

東洋文化研究所

- ① 3冊 ② 2週間 ③ 制限なし 閲覧台帳に記入 ④全学部学生・院生が対象 ⑤ゼミまたはホームルームの指導教授の紹介が必要 ⑥ 9:30~16:30(土 11:30)

学生相談室

- ①制限なし ②1年 ③制限なし ④全学部学生・院生が対象 ⑤学生証を提示 ⑥ 9:30~17:30(土 13:30)

計算機センター

- ①特に決めていない ②2週間 ③特に決めていない ④全学部学生・院生が対象 ⑤不要 ⑥ 8:40~16:45(土 12:30)

国文学科研究室

- ① 3冊 ② 毎週木曜から1週間(利用の多い図書は土~月の3日間) ③ 3冊 ④可 ⑤所属学科研究室発行の借覧願を提出 ⑥ 8:40~18:00(土 13:00) ⑦貸出しは予約が必要

史学科研究室

- ① 3冊 ② 2週間 ③ 制限なし ④可 ⑤所属学科研究室発行の借覧願を提出 ⑥ 9:00~18:00(土 15:00)

哲学科研究室

- ① 5冊 ② 1か月 ③ 制限なし ④可 ⑤所属学科研究室発行の借覧願を提出 個人カードを作成する ⑥ 8:50~16:40(土 12:30)

英米文学科研究室

- ① 1~3年は2冊 4年・院生は3冊 ② 1~3年は1週間 4年は2週間 院生は4週間 ③ 制限なし ④可 ⑤所属学科研究室発行の借覧願を提出 ⑥ 8:40~17:00(土 13:00)

独文学科研究室

- ① 3冊 ② 3か月 ③ 制限なし ④可 ⑤所属学科研究室発行の借覧願を提出 ⑥ 8:50~16:30(土 12:30)

仏文学科研究室

- ① 3冊 ② 1か月(卒論に関するものは3か月) ③ 制限なし ④可 ⑤所属学科研究室発行の借覧願を提出 ⑥ 9:00~17:00(土 12:30)

心理学科研究室

- ① 制限なし ② 2週間 ③ 制限なし ④可 ⑤所属学科研究室発行の借覧願を提出 ⑥ 9:30~17:30(土 13:00)

法経図書室

大森貝塚で有名なモースのコレクション写真をまとめた『百年前の日本』(小学館刊)が入った。カラーフィルムかと思うほどの美しい着色写真など、300点をテーマ別に説明付で配列編集。

時代の先端

—数学科図書室

南4号館3階。大きな複写機とカード・ボックスなどが所狭しと置かれた閲覧室（僅か10席）、左手窓口の奥に事務室兼新着雑誌室、そして出入口口にパソコン機器が居並びいくらか広い書庫と続く。書庫内には200種近い専門雑誌と約12,000冊の単行書が配架された書架、個人用読書机、閲覧机兼仕事机などがある。総面積270㎡—これが数学科図書室の概略図である。

図書室といえば静かな場所を思い浮かべるが、ここは数学科学生にとっては、勉強をし合う所、ゼミの資料をコピーする所、レポートを提出したりとりに来る所、パソコンを使う所（学生も使用自由）、掲示を見に来る所、待ち合せをする所、etc. でもある。このうち「本を利用する所」は何番目ぐらいに入るであろうか？（幸い図書の利用は最近一段と増えているが。）つまり、ここは「数学科よろず承り所」である。しんと静まり返った時があるかと思うと、閲覧室の賑やかな声にコピーの音、事務室内の来客の話声、パソコン用プリンターのけたたましい叫びなどで電話の声も聞きとれぬこともある。こんな時、閲覧室の「静粛」の貼紙は

呆れ顔である。パソコンも始めは1setが片隅に置かれたが、今や3 sets。こちらもパソコンと付き合うはめになった。手書きやタイプの仕事の多くがワープロになり、図書の事務処理にも利用され始めた。本格的な機械化は不可能であるとしても、パソコン利用によって省力化につながる仕事はいろいろ考えられる。ただ、片手間では軌道に乗せるまでにかかなりの時間とエネルギーが必要なので、息長く付き合うことになりそうである。

今は季節外れであるが、晩秋から真冬にかけての快晴の日、はるか西のかなたに、朝は雪をいただいた富士山を、日暮れには夕焼の残照の中にそのシルエットが浮ぶのを眺めることができる。他学科の方も、数学の本を利用したいときはいつでも、そして富士山に会いたい方はこの季節に、数学科図書室へ。

（数学科図書室 高宮弘子）



“亜国「ヘッボン」の英和対訳辞書成就せり。簡便確実にして且鮮明なり。英学に志ある諸君は座右に置かずんばあるべからず…”

慶応3年（1867）「万国新聞紙」にのったヘボン編訳「和英語林集成」発売の広告である。世に「平文字書」として知られた最初の和英辞典の誕生であった。

アメリカ長老派教会宣教師で、名眼科医でもあったヘボン（J.C.Hepburn, 1815～1911）は、自ら平文と号し、来日いらい8年間、「最善の宣教事業」と信じたこの和英辞典の編纂に没頭した。初版は上海美華書館で印刷、横浜で1,200部限定出版された。体裁は半皮洋装大型本で、背にJAPANESE DICTIONARY/HEPBURN（正式英語名 A Japanese and English Dictionary; with an English and Japanese Index）とある。「和英語林集成」

へボン『和英語林集成』

の名は、協力者岸田吟香の考案といわれる。収録語数は、和英の部約20,000、巻末の英和索引が約10,000、日本語をローマ字で綴って見出しとし、片仮名と漢字を示し、英語の説明を与えている。このローマ字表記法が、今日の「ヘボン式ローマ字」の元祖である。幕末期、「心中」「侍」など日本特有の言葉を、外国人が英語でどう定義づけたか眺めてみるのも面白い。初版は、現存部数僅少の貴重本であるが、大学図書館は、この初版のほか2版、4版、5版を所蔵する。

本書は当時から非常によく売れて、改訂を加えながら7版を重ね、後続の、日本人執筆諸辞典のルーツとなっていく。日本英学史上に輝く名著であり、近代日本黎明期の文化のありようを伝えてひととき異彩をはなつ文化財である。

（法経図書室 熊沢夕輝子）

過去から現在までのLondonの姿を、通りのひとつひとつから、建物・公共団体・各時代に起こった事件・人々の生活まで5,000項目を網羅した『The London Encyclopædia』（Macmillan刊）を購入。

参考室あれこれ

①『Academic American Encyclopedia』

②『Kodansha Encyclopedia of Japan (英文日本百科事典)』

参考室に最近入った百科事典である。①は全21巻。プリンストン、アルテ出版社、1981年刊。1980年代に新たに発行された英語圏の百科事典としては最新のため新項目が多い。イラストが豊富。文献目録は項目の40%についている。アメリカではこの百科事典をベースにしたビデオテックスによる情報提供サービスを実施中とか。②は全9巻。講談社、1983年刊。高校生でも理解可能な英語で表現。外国人が日本のことを理解するためだけでなく、日本人が外国人に日本

の事を話す時に便利である。①②ともすぐれた索引がついている。探している項目にたどりつくための案内であり、より深く理解するための関連事項へ導いてくれる道具である。上手に使うて情報量をアップさせよう。

百科事典は、その国、その時代の国民の知的要求に応えられるよう編纂されているので、それぞれ特徴がある。『世界大百科事典』『大日本百科事典』『万有百科大事典』など日本の百科事典だけでなく、スペインの通称『エスパーサ』(スペイン・ポルトガル・南米諸国の人物の調査に便利)など、外国の百科事典も利用しよう。独・仏・伊・露・中国・朝鮮語も揃っている。

(参考係 久保田安子)

卒業生も利用してます！

学習院大学の図書館を数十年来利用しているAさん。閲覧室の窓ガラスが熱気で曇る試験期や、人影もまばらな夏休みの午後にも、黒い大きなカバンを大事そうに抱えたAさんの姿をよく見かけます。

Aさんは、昭和1ケタ代の卒業生…と言えば、お年の程もだいたい想像できるというものです。卒業から今まで、半世紀。その間、Aさんの学問に対する好奇心と、仕事に対する情熱・責任感、少しも変わりません。現在、定時制高校で、漢文の先生として教鞭をとられているそうです。生徒に教える章句は、ひとつひとつ原典に当たり、同時に個人的な研究も、マイペースで着々と進行しているようです。いつも時間とかけっこをするようにカードをとる姿や、自分の中で疑問が消えていって、ホッとしたような笑顔を目にするたびに、精神の若さを持ち続けている人のさわやかさを感じます。今日は、あのカバンからどんな好奇心が取り出されるのでしょうか。

(運用係 清水裕子)

お知らせ

○夏休みも図書館は開いています！

7月21日(土)から9月22日(土)まで、次のとおり利用できます。

平日 8:50~16:30

土・日曜日 休館(ただし9月1、8、22日は12:00まで開館。)

○夏休みの長期貸出しがはじまります

取扱い期間:7月7日(土)~9月22日(土)

返納期限:9月27日(木)~10月8日(月)

貸出し冊数(今年からふえました)

学部学生……5冊まで

院生・論文貸出し(4年生)……10冊まで

○“来ぶらりビデオ”放映開始

毎週火・金曜日のお昼休みにビデオを放映しています。図書館3階ビデオルームで、疲れた頭を休めてみてはいかがですか。

○ベストセラーズコーナー新設

その時々ベストセラーになった本を購入しています。開架図書室で、赤川次郎の推理小説を借りられるわけです。選書は『出版ニュース』の「全国ベスト・セラーズ調査」を参考にしています。

来ぶらり No.6 1984年7月1日発行

発行責任者:波多野里望

編集委員:甲斐静子 清水裕子 中村丈夫

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221